

川俣飯野農業協同組合（JA川俣飯野）



| | | | |
|---------|-----------------------------|-----|-----------------|
| 代表理事組合長 | 佐藤新一 | 役員数 | 27名 |
| 所在地 | 〒960-14 伊達郡川俣町 大字鶴沢字鶴東24 | 理事 | 21名（うち常勤 1名） |
| | ☎0245-65-3211 | 監事 | 6名 |
| 設立年月日 | 平成4年9月1日 | 職員数 | 105名（男71名 女34名） |
| | | 臨時 | 17名 |

I 地区の概況

当地区は川俣町・飯野町の2町で、阿武隈高地の北部、伊達郡の南部に位置し、東は相馬郡、西は福島市、南は安達郡に隣接する山間地帯で、達南地方と呼ばれている。地区の総面積は148km²で、標高は150mから600mの準高冷地であり、総面積の60%以上が山林で、耕地率はわずか17%程度となっている。

気候は平均気温が12℃、降雨量は1000mm前後で比較的少ないが、耕地のほとんどが山間傾斜地に散在しており、また高冷地のため冷害等の

災害を受け易い。

地区内の産業は、農業のほか古くから織物業が盛んであったが、近年は減少しており、特に絹織物の減少が著しい。産業別就業人口も第1次産業が15%前後、第2次産業50%、第3次産業が35%という割合になっており、両町とも人口はここ数年減少しており過疎化傾向にある。

両町とも福島市を中心とした広域拠点都市構想の一員として、産業の育成・誘致や地域活性化等に積極的に取り組んでいる。

Ⅱ 50年のあゆみ

1 地区農業の変遷

川俣町・飯野町とも古くから養蚕が盛んで、江戸時代には幕府の直轄領として絹の集散地として栄えた。また、明治時代には当時の輸出品の花形であった羽二重（軽羽二重）の産地として繁栄し、戦後まで続いたが高度成長期とともに織物は衰退の一途をたどっている。戦後食糧増産のため養蚕は一時振るわなかったが、昭和30年代後半から再び盛んになり、50年代前半までは米とともに達南地区農業の中心として栄えた。

40年代からは、葉たばこの栽培が増えるとともに畜産（酪農）も増加し、48年から麓山畜産基地事業が始まり、大型畜産農家の出現により農業粗生産額の大幅な増加が見られた。

50年以降は、野菜・果樹の生産も見られるが米・養蚕・畜産・葉たばこが達南地区農業の四本柱となり今日に至っている。

しかし、米は標高150mから600mの所で栽培されていることから、年により「ヤマセ」の影響を受けやすく作柄は不安定である。38年以降30年間に13回も平年作を下回っており、実に2～3年に1回の割合で冷害を受けている。また、

図表1 地区農業の変遷（農業センサスより）

| 項目 | | 年次 | 25 | 35 | 40 | 50 | 60 | 2 |
|------------------|-----------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | | | | | | | |
| 総農家戸数（戸） | | | 3,149 | 3,146 | 3,038 | 2,777 | 2,501 | 2,372 |
| うち 専業（戸） | | | 1,774 | 976 | 495 | 241 | 227 | 191 |
| I種兼業（戸） | | | 1,003 | 1,491 | 1,627 | 1,006 | 488 | 273 |
| II種兼業（戸） | | | 372 | 679 | 916 | 1,530 | 1,786 | 1,908 |
| 経営耕地面積（ha） | | | 2,723 | 2,907 | 2,750 | 2,461 | 2,359 | 2,148 |
| うち 田（ha） | | | 1,025 | 1,071 | 1,072 | 966 | 923 | 864 |
| 畑（ha） | | | 1,026 | 1,183 | 1,030 | 724 | 743 | 733 |
| 樹園地（ha） | | | 671 | 653 | 648 | 771 | 693 | 551 |
| 収 穫 面 積 | 稲（ha） | | 945 | 1,007 | 994 | 891 | 782 | 683 |
| | 麦類（ha） | | 689 | 730 | 511 | 35 | 9 | 4 |
| | 野菜類（ha） | | 247 | 248 | 158 | 99 | 103 | 99 |
| | 果実類（ha） | | 13 | 36 | 35 | 58 | 65 | 56 |
| | 飼料用作物（ha） | | | 145 | | 155 | 302 | 269 |
| | たばこ（ha） | | 94 | 126 | 131 | 150 | 185 | 141 |
| 飼 育 頭 数 | 乳用牛（頭） | | 216 | 842 | 949 | 1,188 | 1,414 | 1,544 |
| | 肉用牛（頭） | | 719 | 1,057 | 989 | 778 | 1,005 | 875 |
| 羽 数 | 豚（頭） | | 199 | 360 | 642 | 2,029 | 1,790 | 6,363 |
| | にわとり（千羽） | | 7 | 14 | 17 | 5 | 2 | 3 |
| | ブロイラー（千羽） | | | | | 578 | 2,460 | 1,663 |

（注）ブロイラー 50年以降は出荷羽数

水稻の減反等により60年以降は米の生産も減少化傾向にある。

養蚕も同じく価格の低迷等から60年代に入り減少を続けており、近年は生産農家戸数も著しい減少を見せている。葉たばこも、畜産も大規模農家は残っているものの小規模な生産農家は後継者不足、農業就労者の高齢化により離農者

が増えている。

このような中で、農協等が中心となって進めている野菜・山菜等が着実に伸びてきている。また、56年より導入された山菜のタラの芽は生産者170名、栽培面積50ha、販売額1億2000万円と日本一の生産地になるなど、新しい農業生産の体制作りが図られている。

図表2 主な勘定と事業の推移

(単位：千円、共済：百万円)

| 項目 | | 年度 | | | | | | |
|----------------------------|-----------|--------|--------|---------|-----------|-----------|-------------|------------|
| | | 24 | 30 | 40 | 50 | 60 | 4 (合併年度) | 5 |
| 正組合員戸数(戸) | | 2,507 | 2,855 | 2,819 | 2,730 | 2,573 | 2,472 | 2,460 |
| 准組合員戸数(戸) | | 117 | 249 | 360 | 543 | 522 | 617 | 680 |
| 資 産 | 余 裕 金 | 9,536 | 31,113 | 187,320 | 1,105,101 | 4,637,639 | 8,842,816 | 10,523,103 |
| | 貸 出 金 | 3,982 | 48,960 | 201,924 | 1,501,131 | 4,203,869 | 3,540,996 | 4,012,331 |
| | その他流動資産 | 5,332 | 29,750 | 109,664 | 853,095 | 1,177,532 | 1,545,853 | 1,074,881 |
| | 固定資産 | 2,321 | 9,292 | 30,441 | 375,237 | 545,246 | 607,494 | 619,108 |
| | 外部出資 | 677 | 9,322 | 14,523 | 35,192 | 104,302 | 167,672 | 177,676 |
| 負 債 及 び 資 本 | 貯 金 | 19,845 | 72,378 | 409,177 | 2,977,508 | 8,318,980 | 12,104,485 | 13,975,499 |
| | 借 入 金 | 555 | 33,047 | 64,928 | 197,982 | 687,802 | 291,388 | 213,023 |
| | その他負債 | | 7,940 | 38,904 | 585,393 | 1,238,783 | 1,736,288 | 1,658,045 |
| | 出 資 金 | 1,908 | 17,963 | 37,355 | 110,355 | 339,474 | 493,737 | 519,664 |
| | 積 立 金 | 46 | 170 | | 1,006 | 56,728 | 103,182 | 38,096 |
| | 剰 余 金 | -286 | -3,981 | -6,492 | -2,488 | 26,821 | -24,249 | 2,772 |
| 主 な 事 業 実 績 | 販 売 取 扱 高 | 5,296 | 91,716 | 225,159 | 621,869 | 1,251,709 | 1,124,874 | 1,010,870 |
| | うち 米 穀 | | 51,697 | 168,089 | 418,693 | 578,200 | 309,304 | 188,557 |
| | 青果物 | | 2,347 | 26,558 | 77,581 | 161,113 | 232,083 | 372,029 |
| | 菌 茸 | | | | 96,930 | 200,361 | 336,548 | 210,339 |
| | 畜産物 | | | 18,022 | 28,665 | 312,035 | 246,939 | 239,945 |
| | 購 買 取 扱 高 | | 86,217 | 223,823 | 1,287,239 | 2,153,259 | 1,891,495 | 1,603,016 |
| | うち 生産資材 | | 57,406 | 171,251 | 916,208 | 1,739,818 | 1,155,263 | 1,073,302 |
| | 生活資材 | | 28,811 | 52,572 | 371,031 | 418,441 | 736,232 | 529,714 |
| 長期共済保有高 | | | 1,213 | 17,003 | 104,388 | 157,551 | 165,548 | |

(注) 合併年度は最新合併年度 合併以前の年度は合併参加農協の合計
 24年度は資料不備のため 主な勘定科目は山木屋村農協を含まない
 販売取扱高は飯坂村農協と山木屋村農協を含まない
 購買取扱高は集計できない

2 経営の推移

昭和30年代までは、旧町村単位の小規模な経営であり、また地区内の農業形態から見ても資金・資産とも不足ぎみで経営基盤は極めて脆弱であった。このためどこの農協も貯蓄増強運動と農産物の共販運動に取り組んだ。26年に飯坂村農協と山木屋村農協が農協再建整備法による再建整備指定組合に指定され、役職員が日夜組合員の協力を求めて奔走した努力により5年後には山木屋村農協が見事に目標を達成した。

30年代に入り、経済全般が回復基調に入ったものの、地区内主要農産物の養蚕、酪農、葉たばこはそれぞれ専門農協が取り扱うため、農協は米を中心とした若干の野菜・穀類のみの販売のため、地区内における地位も経営も依然として苦しい内容であった。米は平坦地は気候に恵まれているものの狭い耕地と零細農家が多く、一方山間地は冷害を受けやすいことから、販売事業は安定せず、赤字経営の農協が続出している。

40年代に入り、高度経済成長とともに事業取扱高の伸長が進む。特に購買事業の伸長が著しい。共済事業は後半には伸びてくるが、川俣町、飯野町両農協とも事務所等の固定資産の取得が50年代にわたり継続的に発生していることから依然剰余金の額は少なく、苦しい経営が続くことになる。

50年代には、農協事業の中心が信用事業となり貯金量も飛躍的に増加し、両農協とも比較的安定した経営内容となる。

60年代に入ると、米の減反政策により販売事業の米ばかりか購買事業等にも影響がででくる中で共済事業への依存度が高まって行くことに

なる。

平成年代に入って、金融自由化等により経営基盤が弱くなり主要事業も全般的に伸び悩むようになった。このような農業とJAをとりまく環境悪化対応すべく再度広域合併の道を歩むこととなる。

3 農業協同組合の設立と合併の経過

(1) 設立

昭和23年に、それまでの町村単位の設けられた農業会の資産を受け継いで、川俣町農業協同組合、富田村農業協同組合、福田村農業協同組合、小島村農業協同組合、飯坂村農業協同組合、大綱木村農業協同組合、小綱木村農業協同組合、山木屋村農業協同組合、飯野町農業協同組合、大久保村農業協同組合、明治村農業協同組合、青木村農業協同組合がそれぞれ設立された。

(2) 第1次合併

昭和36年に農協合併助成法が公布されて行政単位の合併が推進された。当地区においても町毎の合併が推進され、川俣町では38年に8農協が、飯野町では37年に4農協がそれぞれ合併して、川俣町農業協同組合、飯野町農業協同組合となって組織基盤の拡充を図った。

42年には川俣町農協が達南畜産農協を合併し酪農を除いて畜産事業は農協の事業となった。

(3) 不発に終わった広域合併

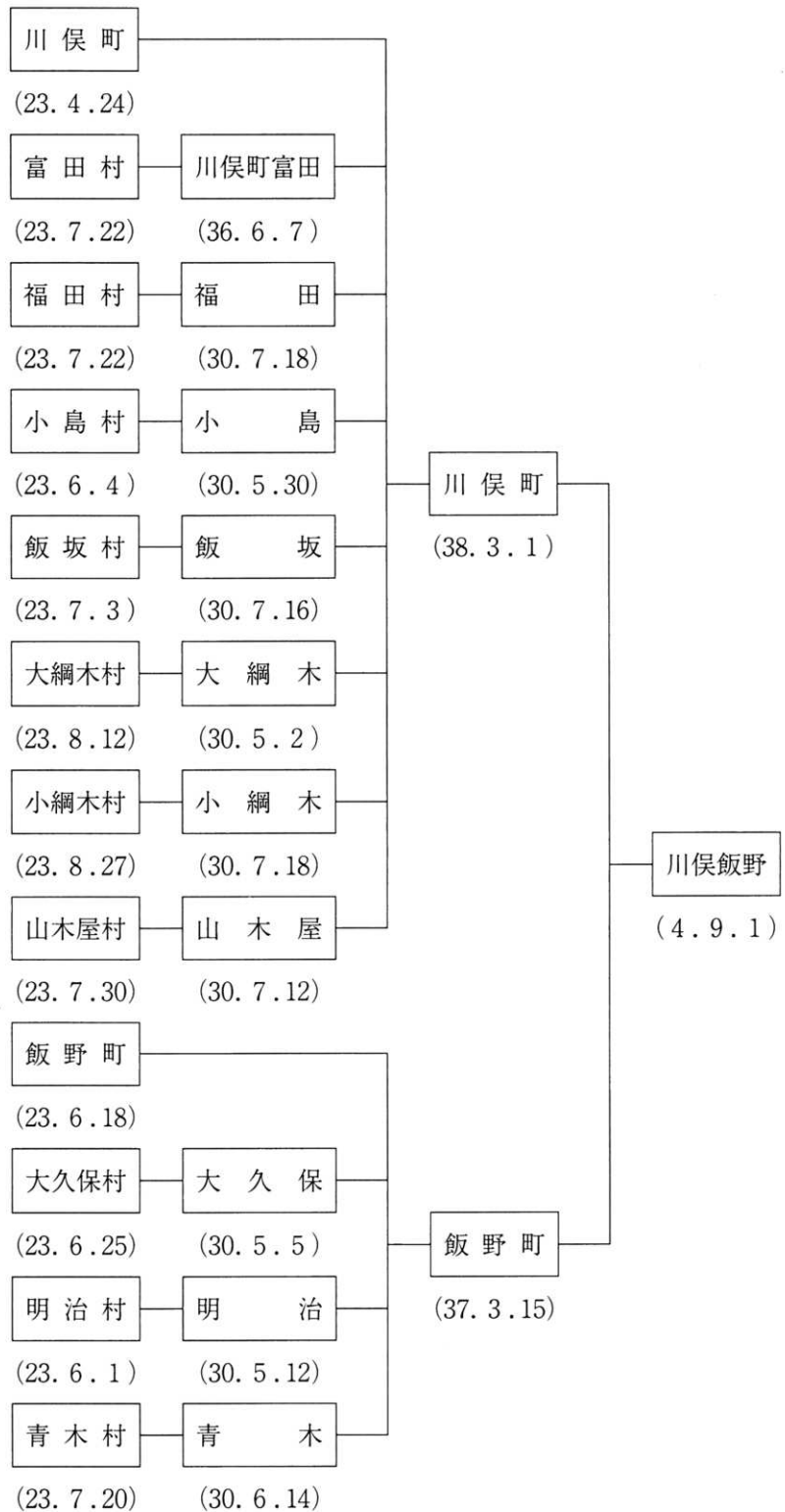
昭和47年に、川俣町農協・飯野町農協の合併を目的とした達南地方農協組織整備研究会や農協問題協議会が設置され、新たな大同合併を模索しているが、養蚕農協など専門農協も一緒に

合併すべきとの論議になり、結果的にはこれら専門農協の合併ができなかったため達南地方農協合併の話は自然消滅するという形で終わった。

(4) 第2次合併

農産物の輸入自由化が伸展するとともに米の大幅な過剰から水田利用再編が実施され、減反が強化され米価が据え置きからさらには引き下げられ、農家の農業所得の低下と農業依存度は低下の一方になった。平成になり、金融自由化が一層進展することにより農協の経営も収益の減少を伴い農協組織再編が唱えられる中、平成3年に新農協合併基本構想が承認され県下17農協構想が出された。当地区は、行政上旧信夫郡管内にあったことから福島市内JAとの合併計画となった。しかし、2年から達南地区として川俣町農協と飯野町農協の合併の話がでていたことから、新合併構想の前段として達南地区農協の合併をみる事となった。福島市内農協と一緒にとの声も多かったが念願の達南地区JAの合併が実現し、4年9月1日に川俣飯野農業協同組合が発足した。

図表3 合併等の経緯



4 再建整備 — 昭和20年代 —

農業会の資産を受け継いで発足したものの、各農協とも零細規模の経営であり自己資金不足のため事業運営は容易でなかった。これは、戦後の財政経済政策の転換（ドッジプラン）の影響もあり、当時7割近い農家が赤字状態にあったことや、経済の統制撤廃という外部要因も重なった下での経営悪化であった。

この当時、財務内容からみて貯金の払い戻しに事欠く状態の組合もあり、自己資金の造成と不良資産の流動化を図ることを第一として組織整備と再建の事業運営が30年代まで続いた。

飯坂村農協と山木屋村農協は農協再建整備法に基づく指定を受けて再建に取り組んだ。県内で102農協が指定を受けたが、再建の目標を達成したのは34農協のみで再建整備は必ずしも順調に行ったとは言えなかった中で、山木屋村農協は目標達成農協の代表として県知事の表彰を

受けた。

28・29年は阿武隈高地を中心に大冷害が発生し、農家はもちろん農協も深刻な痛手を受けた。28年の水稻の作況は川俣町が10a当たり141kgと平年の半分以下、飯野町は215kgと平年の6割の収穫量であった。特に高冷地の農家は、農家配給米の代金延納措置を受け、冷害資金を借入して急場をしのぐ有様であった。各農協はこれらの対応に終始しながらの苦しい再建であった。

5 施設の拡充

昭和30年代になり農協発足10年にもなると、事業運営も農業の伸展とともに徐々に好転してきて、各農協とも事務所、農業倉庫等の施設の取得や改装が行われた。また、農村文化の振興の1つとして各地区で農事有線放送の施設の設置が図られ、新しい農村建設に貢献していった。

36年に制定された農業基本法により農業近代化資金が創設され近代農業経営が打ち出されると、農業構造改善事業が取り組まれ土地基盤の整備拡充がされ、農業の近代化が本格化するようになった。39年、川俣町、飯野町両農協共同経営の農機具サービスステーションを設立した。

40年代の日本経済は、一時の不況を経験しながら高度成長期へと入っていくが、農協も苦しい経営の中にも量的拡大によりその事業を拡大させ

図表4 合併参加農協の概要

| 合併年月日 | 組合名 | 組合長名 | 組合員数 | 役員数 | 職員数 |
|-----------|-------|-------|-------|-----|-----|
| 37. 3. 15 | 飯野町 | 阿部 要市 | 137 | 9 | 8 |
| | 大久保 | 佐藤 菊弥 | 244 | 14 | 7 |
| | 明治 | 斎藤 明 | 222 | 12 | 4 |
| | 青木 | 佐藤 国雄 | 220 | 10 | 4 |
| 38. 3. 1 | 川俣町 | 加藤 清助 | 237 | 12 | 3 |
| | 福田 | 作田 善枝 | 356 | 14 | 11 |
| | 川俣町富田 | 高橋与一郎 | 584 | 18 | 9 |
| | 小島 | 菅野小一郎 | 304 | 12 | 6 |
| | 飯坂 | 本田 徳松 | 208 | 13 | 5 |
| | 大綱木 | 斎藤 貞蔵 | 119 | 9 | 3 |
| | 小綱木 | 香野 清 | 194 | 12 | 4 |
| | 山木屋 | 菅野 吉秋 | 361 | 12 | 10 |
| 4. 9. 1 | 川俣町 | 佐藤 新一 | 2,472 | 23 | 93 |
| | 飯野町 | 大河内一生 | 816 | 13 | 26 |

て行った。第1次合併した川俣町、飯野町両農協とも、プロパンガスや給油所の設置、共選場の取得等や、事務所・農業倉庫の新築等をこの年代に集中して行っている。

50年代、引き続き事業の伸長が進む中で、集荷所、給油所、支所事務所等の施設の拡充が図られた。一方、50年代後半には、信用事業のオンライン化により経営の合理化を図る必要性も生じ、57年には川俣町農協で川俣、大綱木、小綱木の各支所を統合し中央支所を設置した。58年には飯野町農協で全支所を廃止して本所一括体制の整備を図った。

60年代に入り、農業従事者の高齢化、兼業化に対応してライスセンターを設置した。また、菌床しいたけ仕込みセンターを設置して新規導入作物の普及拡大を図った。

6 新規作物の導入

米の生産過剰が起き、生産調整が行われる等米価問題を契機に食糧問題が大きく取り扱われ、米以外の野菜・菌茸類の生産活動が増加するようになった。

50年代に入って、農協が主体となって取り組んできた指導作物が成果を上げてきた。55年には川俣町農協でしいたけが販売高1億円達成したほか、ももや飯野町農協ではキュイフルーツ等が盛んになり部会の設立、コンクールの開催等行われた。反面、この頃から農業情勢は国際経済の影響を受けることになり畜産物を始めとして農産物の輸入枠拡大と自由化が迫られるようになった。

平成4年の合併後も、達南地区農業振興のため新規作物の導入や拡大を図っている。特に山

菜の王様といわれる「タラの芽」の栽培は生産者170名、栽培面積50ha、販売額1億2000万円の日本一の産地としての地位を築き上げた。

7 新たな出発に向けて

これからのJAの経営は、目まぐるしく変化する農業情勢と経済情勢の中で、規制緩和等により大きな構造転換をせまられており、組合員はもとより地域住民の方々に必要とされるJA運営を目指さなければならない。

そのためには、新たな大同団結が不可欠であり、JA新ふくしまとの合併に向け組織体制整備を図らなければならない。

昭和23年に地域に芽生えた協同組合の運動を、達南地区における冷害等の自然災害との闘いの教訓を基に、新時代に向けて地域農業の防人として充実拡大展開してJAの確立に進むことを確信する。



タラの芽栽培（5年2月）

Ⅲ 年 表

| 年月日 | 主 な 事 績 | 年月日 | 主 な 事 績 |
|------------|---|------------|---|
| 23年 | | 9.15 | 川俣町農協組織整備協議会設置 |
| 4.24 | 川俣町農業協同組合設立 | 37年 | |
| 6.1 | 明治村農業協同組合設立 | 1.30 | 川俣町農協合併促進協議会発足 |
| 6.4 | 小島村農業協同組合設立 | 3.15 | 飯野町農協、大久保農協、明治農協、青木農協が合併して飯野町農業協同組合発足 |
| 6.18 | 飯野町農業協同組合設立 | 9.12 | 共済優績 全共連表彰（福田） |
| 6.25 | 大久保村農業協同組合設立 | 38年 | |
| 7.3 | 飯坂村農業協同組合設立 | 3.1 | 川俣町農協、富田農協、福田農協、小島農協、飯坂農協、大綱木農協、小綱木農協、山木屋農協が合併して川俣町農業協同組合発足 |
| 7.20 | 青木村農業協同組合設立 | 39年 | |
| 7.22 | 富田村農業協同組合設立 | 2.23 | 川俣・飯野農協農機具SS開所 |
| 7.22 | 福田村農業協同組合設立 | 4.8 | 県連合会達南団体事務所閉鎖 |
| 7.30 | 山木屋村農業協同組合設立 | 5.30 | 系統利用優良 経済連表彰（川俣） |
| 8.12 | 大綱木村農業協同組合設立 | 6.10 | 共済優績 全共連表彰（川俣） |
| 8.27 | 小綱木村農業協同組合設立 | 7.16 | 39年度生産組織育成強化モデル農協の指定を受ける（飯野） |
| 26年 | 再建整備の指定を受ける（飯坂・山木屋） | 10. | 鶴沢地区、山木屋地区一次農業構造改善事業実施（川俣） |
| 28年 | | 41年 | |
| 5.26 | 貯蓄優績農林中金支店長表彰（大久保） | 10.24 | 移動農事相談所開設（川俣） |
| 29年 | | 42年 | |
| 9.1 | 飯野町、大久保村、明治村、青木村が合併して飯野町となる | 3.25 | 達南畜産農協との合併認可（川俣） |
| 30年 | | 5.4 | 子牛セリ市開始（川俣） |
| 3.1 | 川俣町、富田村、福田村、小島村、飯坂村、大綱木村、小綱木村、山木屋村が合併して川俣町となる | 43年 | |
| 5.2 | 大綱木農業協同組合と名称変更 | 4.22 | プロバングス倉庫敷地取得（飯野） |
| 5.5 | 大久保農業協同組合と名称変更 | 8.6 | 福田・山木屋給油所落成式（川俣） |
| 5.12 | 明治農業協同組合と名称変更 | 9.12 | 和牛部会（班）結成総会（川俣） |
| 5.30 | 小島農業協同組合と名称変更 | 9.18 | 川原田農業倉庫落成式（川俣） |
| 6.14 | 青木農業協同組合と名称変更 | 44年 | |
| 7.12 | 山木屋農業協同組合と名称変更 | 11.5 | 富田事業所事務所新築開所（川俣） |
| 7.16 | 飯坂農業協同組合と名称変更 | 12.20 | 婦人部大会（川俣） |
| 7.18 | 福田農業協同組合と名称変更 | 45年 | |
| 7.18 | 小綱木農業協同組合と名称変更 | 5.11 | 有線放送統合促進委員会発足 |
| 31年 | | 12.30 | りんご共選場取得（飯野） |
| 3.31 | 再建整備目標達成（山木屋） | 46年 | |
| 5.29 | 系統利用優良 経済連表彰（福田） | 11.27 | 有線放送本放送開始（川俣） |
| 32年 | | 47年 | |
| 5.31 | 系統利用優良 経済連表彰（小島） | 1.10 | 有線放送公社線との接続開始（川俣） |
| 33年 | | 4.20 | 第1回通常総代会（川俣） |
| 5.30 | 系統利用優良 経済連表彰（富田） | 7.1 | 常務理事制実施（飯野） |
| 35年 | | 7.11 | 達南地方農協組織整備研究会設立総会 |
| 4.1 | 農事有線放送開始（山木屋） | 10.27 | 達南地方農協問題協議会設置 |
| 36年 | | | |
| 5.30 | 系統利用優良 経済連表彰（飯坂） | | |
| 6.7 | 川俣町富田農業協同組合と名称変更 | | |

| 年月日 | 主 な 事 績 | 年月日 | 主 な 事 績 |
|------------|--|------------|---------------------------------|
| 48年 | | 61年 | |
| 3. | 常務理事制廃止（飯野） | 1.26 | 准組合員のつどい（川俣） |
| 49年 | | 3.19 | そさい共販1億円達成祝賀会（川俣） |
| 2.15 | 本所事務所を寺久保地内に仮移転（川俣） | 11.16 | 婦人部運動会（川俣） |
| 12.28 | 本所事務所完成（飯野） | 11.28 | 研修室完成（飯野） |
| 50年 | | 62年 | |
| 5.20 | 本所事務所鶴沢に移転（川俣） | 5.21 | 共済優績 全共連表彰（川俣） |
| 8. 7 | スーパー川俣店開店（川俣） | 10.14 | ライスセンター完成（飯野） |
| 11. 8 | 農協の日（一斉外務の日）スタート（川俣） | 63年 | |
| 51年 | | 4.27 | 共済優績 全共連表彰（川俣） |
| 5.11 | 特用林産物物流改善基幹施設落成式（川原田）（川俣） | 8. 9 | 達南地区航空防除開始 |
| 8.24 | 飯野給油所営業開始（飯野） | 元年 | |
| 12.29 | 国鉄「飯野町駅」の受託業務開始（飯野） | 3. 6 | 小島支所事務所新築オープン（川俣） |
| 52年 | | 6.28 | 花卉部会設立（川俣） |
| 9. 2 | 青木支所事務所改装工事完了（飯野） | 2年 | |
| 11. 2 | 農協祭（川俣） | 3. 6 | タラの芽品質コンクール（川俣） |
| 11.30 | 富田支所事務所新築オープン（川俣） | 4.10 | 菌床しいたけ仕入センター開所（飯野） |
| 53年 | | 5.29 | 菌床しいたけ部会設立（飯野） |
| 11. 1 | 明治支所事務所竣工（飯野） | 6.27 | 達南地区農協合併懇談会 |
| 55年 | | 3年 | |
| 3. 5 | しいたけ販売高1億円達成大会（川俣） | 2.25 | 飯坂支所特産物直売所新築オープン（川俣） |
| 9. 1 | 有線放送公社線接続廃止（川俣） | 3.25 | 純米酒「織姫」発表会 |
| 56年 | | 7. 3 | 達南地区農協合併研究会先進地視察（南会西部農協） |
| 5.18 | 福田支所事務所新築落成式（川俣） | 7.30 | 川俣町・飯野町・安達町農協果実共同運営協議会（アイカ共選）設立 |
| 8.14 | もも品質コンクール（川俣） | 11. 1 | 食材宅配事業開始 |
| 11. 5 | 年金友の会設立（飯野） | 12. 6 | 達南地区農協合併促進協議会設立総会 |
| 57年 | | 4年 | |
| 9. 3 | 本所事務所改装工事完成（飯野） | 3.31 | 合併予備契約調印式 |
| 10.12 | 山木屋給油所新装オープン（川俣） | 4.10 | 山菜販売高1億円達成祝賀会（川俣） |
| 10.19 | 川俣支所、大綱木支所、小綱木支所を統合し中央支所として川原田に事務所新築してオープン（川俣） | 4.30 | 合併設立委員会発足式 |
| 58年 | | 8.24 | 川俣飯野農協合併認可書交付 |
| 3. 1 | 支所廃止（飯野） | 9. 1 | J A川俣町とJ A飯野町が合併して川俣飯野農業協同組合発足 |
| 9.19 | 信用オンライン開通 | 10.29 | 参与会設置 |
| 59年 | | 5年 | |
| 7.13 | キュウイフルーツ部会設立（飯野） | 3.25 | 野菜集出荷所落成（鶴沢） |
| 8.15 | 町指定金融機関の指定を受ける（飯野） | 5.19 | 共済優績 J A全共連表彰 |
| 10.15 | 山木屋支所事務所・Aコープ山木屋店新築開店（広野原）（川俣） | 8. 5 | 山木屋給油所コイン洗車場オープン |
| 60年 | | 8.25 | 異常気象対策本部設置 |
| 3.20 | 山菜研究会設立（川俣） | 10. 1 | 細川首相冷害視察に山木屋地区来訪 |
| 8.10 | Aコープ川俣店新装オープン（川俣） | 11.26 | 野菜販売高2億円・チェリートマト1億円達成祝賀会 |
| 8.26 | 富田支所にA T M設置（川俣） | | |

IV 資 料

(平成5年度末現在)

1 組 合 員

()は戸数

| 正組 合 員 | | 准組 合 員 | | 合 計 | |
|---------|-----|--------|-----|---------|-----|
| 個 人 | 法 人 | 個 人 | 団 体 | 個 人 | 法・団 |
| 2,612 | 1 | 856 | 93 | 3,468 | 94 |
| (2,460) | | (680) | | (3,140) | |

2 役 員 及 び 参 事

| | |
|-------------|--------------|
| 代表理事組合長 | 理事 広 野 義四郎 |
| 佐 藤 新 一 | 理事 遠 藤 正三郎 |
| 第一理事 | 理事 関 達 夫 |
| 大河内 一 生 | 理事 阿 部 康 彦 |
| 理事 佐 藤 紘 一 | 理事 本 田 覚 治 |
| 理事 矢 吹 源 一 | 理事 伊 藤 洋 明 |
| 理事 菅 野 忠 一 | 理事 高 橋 文 雄 |
| 理事 高 野 幸 一 | |
| 理事 高 橋 功 衛 | 代表監事 |
| 理事 菅 野 藤 行 | 佐 藤 修 一 |
| 理事 斎 藤 弘 道 | 監事 佐久間 勲 |
| 理事 佐 藤 治 秋 | 監事 斎 藤 喜 好 |
| 理事 高 橋 直 秋 | 監事 佐 藤 嘉 徳 |
| 理事 高 木 長 兵衛 | 監事 佐 藤 照 利 |
| 理事 酒 井 嘉 吉 | 監事 佐 藤 寿 男 |
| 理事 洪 谷 岩 男 | |
| | 参事 古 関 善 一 郎 |

3 職 員

| 男 | 女 | 計 | うち営農 指導員 | うち生活 指導員 |
|----|----|-----|-------------|-------------|
| 71 | 34 | 105 | 8 | 2 |

4 協 力 組 織

| 名 称 | 代 表 者 | 会 員 数 |
|------------|-----------|-------|
| 川俣町農事組合協議会 | 広 野 富 作 | 1,921 |
| 飯野町農事組合協議会 | 高 荒 昌 司 | 690 |
| 婦人部協議会 | 佐 藤 ト シ | 950 |
| 生産部会連絡協議会 | 菅 野 宗 義 | 1,583 |
| 川俣町農青連協議会 | 藤 原 清 | 100 |
| 飯野町農業者会 | 伊 藤 壯 一 | 19 |
| フレッシュミセス部会 | 遠 藤 貴 美 子 | 75 |

5 生 産 部 会

| 名 称 | 代 表 者 | 会 員 数 |
|----------|---------|-------|
| 水稻部会 | 斎 藤 富 治 | 892 |
| 野菜生産部会 | 鎌 田 和 男 | 206 |
| 山菜部会 | 渡 辺 健 介 | 170 |
| 和牛部会 | 菅 野 洋 一 | 135 |
| 果樹部会 | 宮 口 文 男 | 64 |
| 椎茸生産部会 | 菅 野 宗 義 | 57 |
| 菌床しいたけ部会 | 伊 藤 精 一 | 43 |
| 酪農部会 | 古 関 定 之 | 7 |
| 養豚部会 | 高 橋 一 | 5 |
| なめこ部会 | 菅 野 新 一 | 4 |

6 主 な 施 設

| 名 称 | 所 在 地 |
|-----------|---------------|
| 本店 | 川俣町鶴沢字鶴東24 |
| 中央支店 | 〃 字川原田5 |
| 富田 〃 | 〃 鶴沢字油田38-7 |
| 福田 〃 | 〃 羽田字田中3-2 |
| 小島 〃 | 〃 小島字馬場9-1 |
| 飯坂 〃・直売所 | 〃 飯坂字下中居12-1 |
| 山木屋 〃 | 〃 山木屋字広野原17 |
| 飯野 〃 | 飯野町飯野字戸ノ内13-7 |
| 農業倉庫(川原田) | 川俣町字川原田5 |
| 〃 (飯野) | 飯野町青木字向広表50 |
| 〃 (飯野) | 〃 大久保字二本柳15 |
| ライスセンター | 川俣町山木屋字広野原17 |
| 〃 | 飯野町大久保字谷津57-1 |
| 野菜集出荷所 | 川俣町鶴沢字鶴東37-1 |
| 野菜集荷所 | 〃 字川原田5 |
| 果樹共選所 | 飯野町飯野字太子ヶ原40 |
| 有線放送施設 | 川俣町字川原田5 |
| 給油所(福田) | 〃 羽田字田中3-2 |
| 〃 (山木屋) | 〃 山木屋字問屋38-1 |
| 〃 (川原田) | 〃 字川原田5 |
| 〃 (飯野) | 飯野町飯野字戸ノ内13-7 |
| Aコープ店 | 川俣町鶴沢字油田38-7 |
| 農機センター | 〃 字川原田5 |

7 歴 代 組 合 長 ・ 参 事

| 組 合 長 | 参 事 |
|-----------|-----------|
| 4 ~ 佐藤 新一 | 4 ~ 古関善一郎 |